

父が下さった杯であるなら

(ヨハネ18・1-11)

一、すべて知っておられた

今回の聖書箇所を読むために押さえておくことは、主イエスは、ご自分に起ころうとしていることをすべて知っておられたという、4節のことばです。

「イエスはご自分に起ころうとしていることをすべて知っておられたので、進み出て、「だれを捜しているのか」と彼らに言われた。」とあります。

主イエスは、およそ二十歳にして(ルカ3・23)、御自身が温めてきた思いを実行に移されました。主イエスは、私たちと同じ人間でもありましたから、子供の頃は聖書の教えについて、すなわち律法の教えについて、分からないこともあったであります。そういうときは、律法の教師に質問をしたりしていました。しかし知恵に満ちていたようです。そして何と言っても、罪がありませんでした。いつも父なる神と神が一致していました。そして神秘中の神秘は、主イエスは神であったことです。その意味は、からだという衣をまとった神であったということではありません。主イエスというひとりの人が、神であり人であった、人であり神であった、ということなのです。

こうして主イエスは、常に「時」を意識して歩まれました(ヨハネ2・4、7・6、7・8、マタイ26・18を参照)。いよいよ十字架の死が近づくと、「人の子が栄光を受ける時が来ました」とおっしゃいました。ヨハネの福音書12章23節です。

そういうわけで、主イエスが十字架で死なれたのは、「わたしの時」として意識してこられたものです。ですから、もしも弱さのゆえに、ずるずると引き込まれて十字架にかけられたと考えるなら、まちがいです。

二、「わたしはある」

「イエスはご自分に起ころうとしていることをすべて知っておられた」を確認したところで、1節に遡って見てまいります。〈18・1〉主イエスの一行は、エルサレムで一日早い過越の食事をすませてから〈キデロンの谷の向こう〉に行かれたとあります。すなわちオリブ山に行かれました。〈そこには園があり、イエスと弟子たちは中に入られた〉とありますが、そこはゲツセマネの園のことです。

2節に〈18・2〉とあります。主イエスを裏切ろうとしていたユダは、食事の途中で出て行ってしまいましたから、皆と一緒にいませんでした。しかし、主イエスと弟子たちがゲツセマネの園に集まっていることを知っていました。

こうして、3節です。〈18・3〉とあります。主イエスには、ユダが裏切ること、自分を捕まえに来ることのすべてを知っておられました。しかも、それらの闇の力が、父である神の許しによってなされていることを、そして自分が捕らえられることをです。なぜなら、

「ご自分に起ころうとしていることをすべて知っておられた」からです。

さて、5節には〈18・5〉とあります。ヨハネの福音書は、マタイ、マルコ、ルカという三つの福音書の記述と、かなり異なっています。ヨハネの福音書は、三つの福音書よりかなり後に発行されていますし、ヨハネは、三つの福音書の内容を知っていたと考えられます。そうであるなら、ヨハネの福音書に書かれている不自然なやり取りは、事実を超える何か大きなメッセージを伝えているように思われます。

主イエスが語られた「わたしがそれだ」ということばですが、元の聖書には「わたしはある」とも訳されることばが書かれています。「わたしはある」とは、何なのでしょうか。出エジプト記に記されている、神がモーセに御自身の名を知らせられた「名」です。すなわち、主イエスが「わたしはある」と語られたのは「わたしは神である」という意味で語られたわけです。そのように受け止めますと、6節の意味も見えてまいります。なぜ〈彼らは後ずさりし、地に倒

れた〉のでしょうか。ヨハネの福音書が語らんとしたのは、彼らが主イエスの神性に圧倒されたということなのです。

三、父が下さった杯であるなら

最後にお語りすることは、今回の説教題にもなっています。「父が下さった杯であるなら」です。

11節をご覧ください。〈18・11〉後半の「父がわたしに下さった杯を飲まずにいられるだろうか」をご覧ください。主イエスは、父である神から託された〈御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである〉というわざを果たすために、すべてのエネルギーを費やされました。これは、独り子なる神が、人として生まれることによってできたわざであり、私たちにはできません。そもそも私共ができるわざではありません。神のなせるわざです。

ところで、私たちには、それぞれに神が用意された杯があると思います。それは、世の中の価値観で考えるなら不公平に見えるかも知れません。ですが、主イエス・キリストを知りますと、この世の価値観が薄れて行くようです。

どうぞ、皆さま。自分が置かれている状況を、神が下さった杯と捉えて、主にあって良い人生を歩んでください。それが、質の良いあかしにつながってまいります。